

## 百人一首で覚える助動詞②

## 不確定な助動詞②→推量・推定・打消・打消推量・反実仮想

① (75) 契りおきしさせもが露を命にてあはれことしの秋もいぬめり(推定・終止形)  
 (約束が果たされないままに) ああ、今年の秋もむなしく過ぎるようだ

② (83) 世のなかよ道こそなけれ思ひ入る山のおくにも鹿ぞ鳴くなる(推定・連体形)  
 衣を打つているようだ (うつ) …タ四であるが、文脈・または本歌から伝聞推定と判断できる

鹿が (悲しげに) 鳴いているようだよ

③ (94) みよしのの山の秋かぜ小夜ふけてふるさと寒く衣うつなり(推定・終止形)  
 衣を打つているようだ (うつ) …タ四であるが、文脈・または本歌から伝聞推定と判断できる

④ (42) ちぎりきなかたみに袖をしぶりつつ末のまつ山波こさじとは(打消意志・終止形)  
 末の松山を波が越すまいと (あり得ないことを起こすまい)

⑤ (51) かくとだにえやはいぶきのさしも草さしもしらじな燃ゆる思を(打消推量・終止形)  
 それほどとは知らないじょ

⑥ (10) これやこの行くも帰るも別れてはしるもしらぬもあふ坂の関(打消・連体形)

知つてゐる人も知らない人も

⑦ (17) ちはやぶる神代もきかず龍田川からくれなるに水くくるとは(打消・終止形)

神代にすら聞いたことがない

⑧ (44) 逢ふことの絶えてしなくはなかなかに人をも身をも恨みざらまし

(打消・未然形)

男女関係が絶対にないのであれば、かえって、あの人を恨んだり自分自身を恨むことはないのに。  
 反実仮想

⑨ (43) あひ見ての後のこころにくらぶれば昔は物をおもはざりけり(打消・連用形)  
 (契りを結ぶ) 以前は物思いをしていなかつたようなものだつたよ

⑩ (92) わが袖は潮干に見えぬ沖の石の人こそしらねかわくまもなし(打消・已然形)  
 私の袖は、干潮の時にも海に没して見えない沖の石のよう、人は知らないが、…